

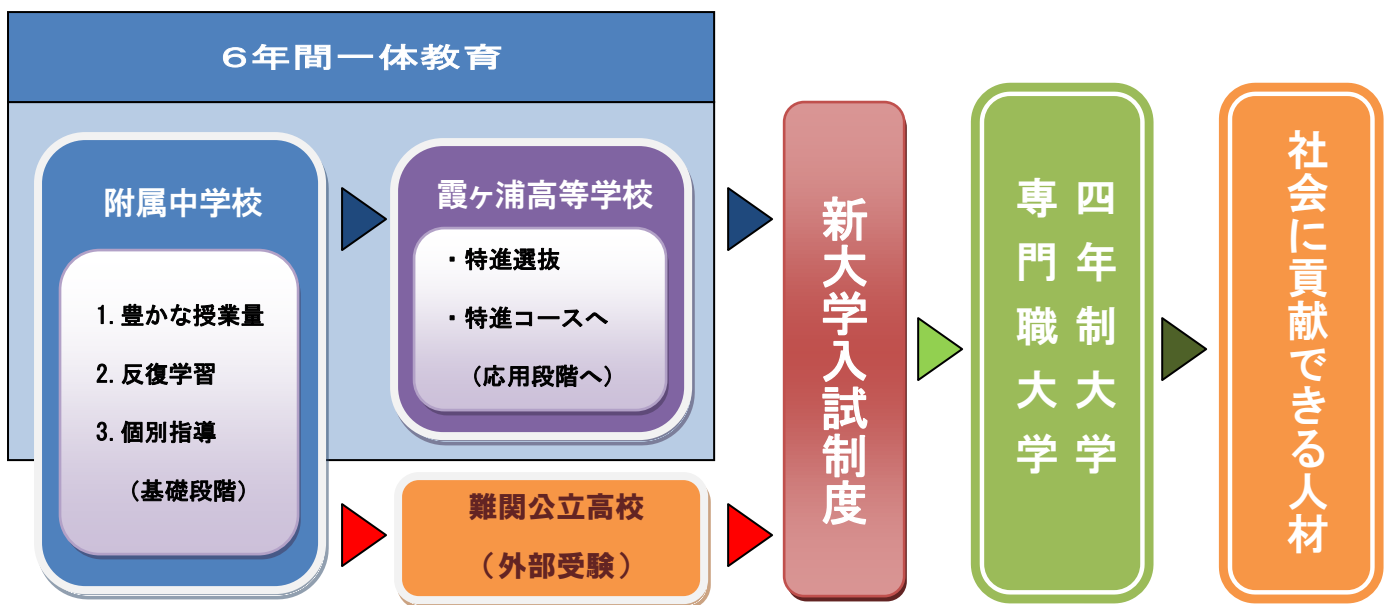
「霞ヶ浦中高連携システム」の導入と校名変更についてのお知らせ

学校法人 霞ヶ浦高等学校

＜「霞ヶ浦中高連携システム」の概要＞

（１）学校教育の最終目標は「立派な社会人」育成

現在、「学校教育のあり方」が議論されているが、その根底には、「時代の変化に十分に対応できない実態」が指摘されている。その解決策には、中高段階での「一体的教育体系（6年間）」が必要とされ、霞ヶ浦高等学校では、下記のシステムを独自に導入する。



（２）これまでの実績を踏まえての「独自システム」

霞ヶ浦高等学校（霞ヶ浦農業学校）は昭和21年5月に創立され、今年で「70年の歩み」を重ねている。その理念は、「堅実」「勤勉」「協調」である。また、霞南至健中学校は、平成21年4月に開校し、その卒業生は難関公立高校に多数入学している。こうした実績を踏まえ、「6年間の中高連携システム」を導入する。

（３）「教科授業」と「課外活動（部活動）」との併修システム

政府の「教育再生実行会議」でも指摘されているように、調和のとれた人間教育を実現するためには、「正規の授業」のほかに「アクティブ・ラーニング」や「インターンシップ」などを併せて指導教育することが必要とされている。

そこで、「正規の授業」では「新しい大学入試方式」に対応できるよう見直し、また「課外活動（部活動）」の面では現在の「運動部」（野球部・サッカー部・バレーボール部・ヨット部など）に

加え「文化部」を一層充実させるほか、「総合学習部（国際交流・郷土文化・職業体験・大学受験対策など）」の面も拡大させることとする。それらは、霞ヶ浦高等学校の持つ「これまでに蓄積された潜在力」を投入することにより実現させる。

①「立派な社会人」となるための学力と人間性を養う「6年間一体教育」

②これまでの歴史的実績（中学8年間及び高校70年間）

③平成32年より始まる新大学入試制度に向けての準備

これを達成するために、「課外活動」への参加率を「80%」（現在は40%）まで高めることを目標とし、「霞ヶ浦高校らしさ」を作り上げる。

特に中学校において平成29年4月より新たに硬式野球部とサッカー部（男女）を創部することにより教科教育と課外教育の両立、新大学入試突破の目標を達成する。

硬式野球部は甲子園に出場させた実績のある指導者が担当し、中学校硬式野球場を第2グラウンドに建設する。

サッカー部は筑波大学等で指導実績のあるスタッフを中心に指導にあたり、新サッカー場を第3グラウンドに2面建設する。

（４）「新大学入試制度」への取り組み

現在の入試「センター入試」は、知識重視の傾向が強く、偏差値による選抜が中心となり、論理的思考の点から問題があるとされている。そこで、「論文記述」の方式を導入するという提案が出され、現在その具現化に向けた検討がなされている。そして、平成32年4月の高校入学生（現在の中学2年生）から実施される見通しである。これに関しては、現在各方面で対策が講じられており、「霞ヶ浦中高連携システム」構築においても時機を逸しないよう取り組むこととする。

<中学校の校名変更>

現在は、学校法人霞ヶ浦高等学校のもとに「霞ヶ浦高等学校」と「霞南至健中学校」が設置されている。これは、「併設」に近い形といえる。この度の新しい「中高連携システム」の導入に当たっては、対外的に、より明確化させるため学校の名称を次のこととする。

①中高両校を表示する場合：霞ヶ浦高等学校・附属中学校

②中学校を表示する場合：霞ヶ浦高等学校附属中学校

③中学校を略称として表示する場合：霞ヶ浦附属中

この名称変更は、平成29年4月より実施することとする。